

平成24年度 学校自己評価システムシート (県立久喜工業高等学校)

目指す学校像	自分創りを目指し、望む進路実現を図り、真の感動を味わえる”こころ・技・からだ”が育つ学校 ー①もの創りの”こころ”と”技”を身につけた人づくりを目指す。 ②知・徳・体のバランスのとれた人づくりを目指す。ー
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 個に応じた学力と技術力の向上を推進する。 授業態度の確立を図る。授業内容の充実を図る。資格取得等を奨励する。 基本的生活習慣の確立と向上を推進する。 欠席、遅刻、早退の減少を図る。服装、頭髪指導の徹底を図る。挨拶と正しい言葉遣いの励行を図る。 個々の生徒に応じた進路指導を充実する。 生徒の職業観や勤労観を育成するとともに、進路希望に応じたきめ細やかな指導を行う。 地域の信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。 中学生やその保護者に積極的な情報提供を行う。地域の行事等への参加。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

年度		学校自己評価		年度評価(1月31日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	・基礎学力を身につけずに入学する生徒が多い現状の中で、各教科及び学科で工夫をし、基礎学力の向上へのさらなる取り組みを行う。 ・生徒が自主的に学習に取り組む意欲を向上させ、成績優良者数を増加させるとともに、成績不振者数(欠点者・欠点)を減少させる。 ・工業高校の専門性を活かし、将来に役立つ資格取得数(技術顕彰・ジュニアマイスター数)を増加させる。	授業改善、学力向上 基礎学力の必要性を認識させ、生徒個々の状況にあった指導を行う。	・各教科及び学科で具体的な基礎学力の向上に向けた取り組みを検討し(年度当初)、年間とおして取り組む。 ・全教科で進路や資格取得に対する意識を向上させ、生徒の学習意欲を高める。 ・成績不振者に対して、各教科・学科できめ細やかな指導をするとともに、不振の状況を保護者に通知し、学校と保護者が連携して欠点の解消を図る。 ・資格取得に対する意識を高めるために、早期(1学期)に技術顕彰・ジュニアマイスターの基準を示す。	①基礎学力の向上に向けた取組をまとめ、保護者に通知する。(1学期) ②成績優良者数を10%増加させる。 ③成績不振者数及び欠点数を10%減少させる。 ④技術顕彰者数を10%増加させるとともに、ジュニアマイスター表彰者数を増加させる。	①1学期当初に、各教科・学科ごとに基礎学力の向上に向けた具体的な取り組みをまとめ、一覧にして保護者に配布した。 ②成績優良者数は昨年度同期に比べ、ほぼ同数であった。(第2学期現在) 昨年度 83名 → 今年度 81名 ③成績不振者数は昨年度同期と比べ、約13%減少した。(第2学期現在) 昨年度 182名 → 今年度 159名 ④欠点数は昨年度同期と比べ、約25%減少した。(第2学期現在) 昨年度 519個 → 今年度 389個 ④技術顕彰者(高校生専門資格等取得表彰)数は昨年と比べ増加した。 昨年度 32名 → 今年度 37名 ④ジュニアマイスター表彰者数は昨年度と比べ1名増加した。 昨年度 ゴールド 2名、シルバー 1名 合計 3名 → 今年度 ゴールド 2名、シルバー 2名 合計 4名	B	・各教科ごとに基礎学力向上に向けた取り組みを継続すると共に、退学者数を減少させるための指導方法を検討する。 ・成績不振者は、人数・欠点数共に減少したが、成績優良者を増加させるための取り組みを検討することが課題である。 ・資格取得の意欲を向上させるために、生徒個々の資格の取得状況を、一括して把握するシステムを構築することが課題である。
2	・規範意識を確立するとともに基本的生活習慣を確立する。 ・欠席・遅刻・早退数を減少する。 ・遅刻・欠席の多い生徒に対して、個別に丁寧な指導を行い、遅刻防止指導を充実する。 ・頭髪・服装指導について学年主体ではなく学科と連携を図って行う。 ・交通安全指導・美化運動などに、生徒会等が積極的に参加できるシステム作りを行う。	生徒指導 基本的生活習慣の確立を目指し、社会共団体の一員であることの自覚を身につける。	・生徒指導部、各学年、各学科の連携のもとに、校則や生活マナーを自覚できる生徒の育成に取り組む。 ・年間を通して、継続的かつ組織的に遅刻指導に取り組む。出席率を向上させ、退学者を減少させる。 ・スクールサポーター(保護者)と協力し、校門や校外で、挨拶・身だしなみ・交通安全等の指導を継続的に行う。 ・教職員による積極的な声かけにより挨拶・整容指導を実施する。 ・HR・講演・ビデオ等により日常の生活の中で、人権を尊重する態度を育成する。また、保護者と連携し、人権教育に関する意識を啓発する。	①欠席・遅刻・早退率を昨年度より10%減少させる。 ②問題行動数(指導件数)を昨年度より10%減少させる。 ③退学者を昨年度より10%減少させる。 ④校門・校外指導の回数を昨年度より増加する。 ⑤各種研修会や指導教室への保護者の参加率を増加させる。	①各学期ごとに遅刻防止週間を設けて、担任・学年・生徒指導部が指導を行った。また、担任を中心に、欠席が多い生徒にきめ細かな指導を行った。この指導により、昨年同期比で欠席者9%減、遅刻者21%減、早退者16%減になった。(12月現在) ②学年と生徒指導部が連携して、登校指導や校内外の巡回指導を行った。また、担任が問題行動を未然に防止するために、生徒へきめ細かな指導を行った結果、問題行動が昨年同期比7件(33%)減少した。 ③今年度の退学者は、入学当初から学校生活に馴染むことができなかった1年生だけだった。退学者数は、昨年同期比7人増加した。 ④定例の校門・校外指導の指導を行うとともに、学年と生徒指導部が連携して指導を増加した。 ⑤保護者へ非行防止教室(薬物乱用)等の参加を呼びかけた結果、参加者が増加した。	B	・遅刻・欠席・早退数の減少について、年々順調に減少している。来年度は、学年と生徒指導部の連携を図り、指導を強化することが課題である。 ・来年度は、1年次の退学者の減少のために、全教職員が連携して、さらにきめ細かな指導を行うとともに、生徒募集を積極的に行い、不本意入学者を減少させることが課題である。
3	・就職難が問題視される中、本校では就職希望者が漸増傾向にある。生徒の進路実現を図るために、就職及び進学未定者数ゼロにする。 ・就労意欲が低い生徒が入学してくる中で、就職希望者全員をニートやフリーターにしないために、職業観・勤労観を育成する。 ・保護者の就職・進学への関心の高さに対し、適時に的確に情報提供し、開かれた進路指導を目指す。	進路指導 生徒の進路意識を向上させるとともに、生徒及び保護者にきめ細やかな進路指導を行う。	・生徒の進路に対する意識を向上させて、進学未定者を出さない指導を行う。 ・各学年との連携を図り、3年間を通しての進路学習を行う。 ・就職・進学で重視されるコミュニケーション能力を向上するために、面接指導をさらに充実させる。 ・全員参加によるインターンシップを実施する。 ・保護者に適切に情報提供を行い、開かれた進路指導を実施する。	①就職率・進学率100%を実現する。 ②各学年の進路ガイダンス・諸検査の実施回数を昨年度以上とする。 ③3学年の就職・進学の面接指導を全教職員で行う。 ④インターンシップアンケートの生徒満足度を80%以上にする。 ⑤進路行事の保護者参加数を前年度比5%増加させる。	①就職内定率は、昨年に引き続き、100%を(12月26日)年内に達成した。 ②進学率に関しても、3月で100%を達成した。(3月13日) ③今年度から外部講師(人事担当者及び入試担当者)による面接指導を行ったため、進路指導に関するガイダンスの実施回数が1回増加した。 ④面接指導は、管理職を含めて全教職員で実施した。本校生徒に不足しているコミュニケーション能力を向上させるために効果があった。 ④インターンシップの生徒満足度は、92パーセントの生徒が満足しているという結果であった。(2月25日) ⑤1学年の保護者対象進路説明会は、集団宿泊研修説明会時に、進路指導主事により実施した。進路説明会の保護者参加者数は、全体で昨年度比約70名増加した。	B	・来年度も引き続き就職・進学内定率100%を目指す。 ・積極的な企業開拓を行い、求人数を増加することが課題である。 ・進路指導部と各学年の連携を図り、進路指導ガイダンスの計画等がスムーズに行われるように調整を行うことが課題である。 ・保護者対象の説明会を充実し、進路指導の情報発信の活性化を図ることが課題である。
4	・本校を希望する中学生を増加させるために、学校説明会を増やすことや、中学校への出前授業等の働きかけを行う。 ・学校の情報を生徒・保護者や地域住民に的確に伝えるとともに、生徒・保護者学校の意見を集約して、教育活動に反映させる。 ・来年度実施する、50周年記念事業の準備を円滑に行うために、校内外の連携を図る。	開かれた学校づくり 地域に開かれた学校作りを行うとともに、生徒・保護者に信頼される学校を目指す。	・多くの中学生や保護者に本校の教育活動を知らせるために、学校説明会を増やすとともに、学校のPR資料を作成する。 ・意欲ある生徒獲得のために、入試選抜基準を見直すとともに、中学校等へ出前授業を積極的に行う。 ・緊急災害時の連絡や学校行事等の教育活動の情報を生徒・保護者に発信する。 ・生徒・保護者の意見や要望を的確に把握し、教育活動に反映させる。 ・50周年記念事業準備委員会及び校内準備委員会を開催し、各組織が連携を図り準備を円滑に行う。	①学校HPの更新回数を昨年度より10%増加する。 ②学校説明会の回数を増やす。 ③学校PR資料を作成する。(学期1回以上) ④入試選抜基準を改定する。(年度当初) ⑤出前授業を昨年度より増加する。 ⑥学校の情報をメールで配信するシステムを構築する。 ⑦生徒・保護者アンケートを年1回実施し、結果を教職員へ周知する。 ⑧記念事業実行委員会を年間3回以上実施する。	①HPの更新は昨年比36%増加の83回。アクセス数は昨年比20%増加の23,983回であった。(1月現在) ②学校説明会を計4回実施し、昨年度比1回増加した。 ③各学期1回計3回のPR資料(久喜工だより)を発行し、中学生や保護者に配布し、本校の教育活動のPRを行った。 ④入試選抜基準を、中学校時代の特別活動と面接に重点をおいた内容に改定した。(1学期) ⑤中学校3回、児童館1回実施。回数は昨年度と同数だが、中学校で本校単独の出前授業を1回実施した。 ⑥学校行事の開催等について登録者(生徒・保護者・教職員)に情報を発信するシステムを構築して、年間を通して活用した。(配信回数11回) ⑦保護者アンケート(6月)、生徒アンケート(12月)を実施し、教職員へ内容を周知するとともに、学校評価懇話会でアンケート結果について意見をいただいた。 ⑧記念事業実行委員会を4回実施。記念事業の一環として10月に被災地ボランティアを実施。記念式典や記念事業は計画どおり進行している。	A	・学校案内の改訂、HPの積極的な情報発信、出前授業の継続等とおして本校の教育活動を積極的に行い、生徒募集に繋げることが課題である。 ・50周年記念事業を成功させるために校内外の連携を図り、記念式典や記念事業を計画どおりに実施することが課題である。

学校関係者評価	
実施日	平成25年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・欠点者が減少していることから全体の底上げができていよう。	・成績上位者に変化がほとんどなく上位者を伸ばせていないようなので、来年度は上位者を伸ばせるようにしてほしい。
・資格取得は、生徒の学習意欲を向上させることにつながるのので、さらに推進していくとよいと思う。	・成績不良による退学者については、興味を引く授業の改善も必要だと思う。
・テスト前に分かったところを自由に質問でき、教えてもらえるような補習を構築することが課題である。	・テスト前に分かったところを自由に質問でき、教えてもらえるような補習を実施してほしい。
・我が社にインターンシップで来た生徒達は、指導がしっかり行われており、挨拶などができていた。社会では挨拶をすることや基本的生活習慣は大切なので推進してほしい。	・以前に比べて校内がきれいになっており、「悪い生徒」があまりいないが、「普通の生徒」ばかりになってしまっていて、突出した子がいないように感じる。個性のある生徒が出てくるのが望ましい。
・身だしなみが良くなっていると思う。また、挨拶をする生徒が増えていることを感じる。	・大学全体の進路状況は70%位の内定率なので、就職内定100%はすばらしいと思う。
・来年度も引き続き就職・進学内定率100%を目指す。	・企業が求める人材としては、平均的にまんべんなくできる生徒より、1つのことに集中してできる子が望ましい。また、長く辛抱強くやり続けられるような人材を欲している。
・進路指導の状況などを見ても先生方の熱意のある指導を感じるのので、それが生徒に伝わるような努力をしてほしい。	・資格取得状況をHPに載せることは、どのような資格が取れるのかが分かるので良いと思う。
	・大学では専門の部署で学校HPの管理を行って積極的にPRに活用している。
	・50周年記念事業を成功させるために校内外の連携を図り、記念式典や記念事業を計画どおりに実施することが課題である。